



写真奉納 高野英佑氏

慰霊安鎮・疫病退散祈願花火



第4号



発行所
茨城県護國神社
水戸市見川1-2-1
電話 (029) 241-4781
FAX (029) 297-8332



宮司挨拶

茨城県護國神社
宮司 飯塚 重

謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄をお慶び申し上げるとともに、ご遺族崇敬者の皆様に新年のご挨拶を申し上げます。昨年年度より始まった新型コロナウイルス感染症流行により社会は多大な影響を受け、未だに終息をみておりません。様々な祭典・行事も規模を縮小し執り行わざるを得ないなか、当社は昨秋十二月六日に櫻山ご遷座八十年の嘉日を迎えました。

嘉永六年以来の国事に殉難した御霊を明治十二年に常磐神社末社「鎮霊社」として鎮座し、同二十三年には天皇皇后両陛下水戸行幸啓に併せて祭料を賜わっております。昭和十三年十月までに合祀された英霊は五千三百余柱にのぼり規模狭小の憾みから現在の櫻山への移転造営が計画され、延人員二万六千四百名もの一般奉仕者により樹木の移植、地均し等の作業がなされました。

昭和十六年の遷座祭は全県下の電灯が全て消灯され全県民が遙拝をし浄暗のなか斎行されました。当時いかに県民が国事に殉じた英霊に対し報恩感謝の念が厚かったかが推察されます。

御成敗式目に「神は人の敬によりて威を増す」とあります。全県民のみならず多くの崇敬を篤める護國の大神様の大御蔭を戴き、日も早く感染症流行が終息し平穏な日常が戻りますことを衷心よりお祈り申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。

祭典行事

七月一日から十二月三十一日

八月 十五日 終戦記念祭

九月 二十三日 秋分祭

十月 十七日 神嘗祭当日祭

十一月

二日 顕勲の塔慰霊祭

三日 明治祭

六日 遷座記念祭

十日 秋季大祭

二十三日 新嘗祭

十二月三十一日 年越大祓

終戦記念祭

八月十五日 午前十一時半

終戦七十六年を迎えた本年の終戦記念祭が斎行され、先の大戦で散華された御英霊に感謝の誠を捧げ、恒久の平和と繁栄を祈念いたしました。

日本武道館で行われた全国戦没者追悼式を伝えるラジオ放送に合わせて一分間の黙祷を捧げ、追悼式に御臨席の天皇陛下の「おことば」を拝聴いたしました。

特攻戦没者慰霊祭

十月十日 午前十一時

十月十日、茨城県特攻戦没者慰霊顕彰会により慰霊祭が斎行されました。

新型コロナウイルス感染症禍が未だに終息しない中で、の祭典は、境内参道に建立された「特攻勇士之像」の前で斎行され、同会会長幡谷定俊氏をはじめ役員関係者が参列して玉串を捧げました。

平成三十一年の勇士之像建立より今回は三回目の慰霊祭となり、参列者一同は御霊の安寧と感染症禍の一日も早い終息を祈念しました。



特攻慰霊祭



終戦記念祭



毎月一日、十五日 十時より

月次祭齋行

毎日十一時より命日祭齋行

顕勲の塔 慰霊祭

十一月二日 午前十一時

茨城県遺族連合会により顕勲の塔慰霊祭が斎行されました。顕勲の塔は日清戦争から太平洋戦争までの幾多の戦いにおいて、国のため散華された県下の五万八千余柱の英霊を慰め、その遺勲を後世に伝えようと、全遺族の祈りをこめて建てられたものです。

御霊が安らかにこの地に鎮まり、また世の平和と繁栄を祈念致しました。

秋季大祭

十一月十日 午前十時半

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から規模を縮小しながらの斎行となりました。

紅葉が色づき菊薫る秋の境内では厳かに海川山野の神饌が供せられ、齋主飯塚宮司による祝詞の奏上、献幣使としてご参向の茨城県神社庁木村明雄副庁長による祭詞が奏上されて、滞りなく斎行致しました。



秋季大祭



顕勲の塔慰霊祭

慰霊の花火

八月十五日、午後七時から御霊の安寧と世界恒久の平和、そして新型コロナウイルス感染症の早期終息を祈念して、慰霊安鎮・疫病退散祈願花火を打ち上げました。

感染症禍による鬱屈した社会状況のなかで、少しでも皆様のこころを和ませ希望の光となればとの思いから実現いたしました。



写真奉納 高野 英佑氏

※感染症拡大防止のため

告知はせずに執り行っております。

昨年は匿名の方よりご奉納頂きました。本年より皆様のご篤志を頂き度お願ひ申し上げます。

西ノ内紙御朱印

現在、茨城県護國神社では常陸大宮市の国・県指定文化財である「西ノ内紙」を用いて季節に応じた御朱印を頒布しております。

「西ノ内紙」は水戸藩の専売品として藩の財政に大きく貢献し、『大日本史』編纂用紙に用いられました。丈夫で水につけても破れにくいことから江戸では商人の大福帳にも使用されております。

茨城県の県名を冠する茨城県護國神社として県内の伝統・精神を守り伝えるべく、西ノ内紙「五介和紙」のご協力のもと御朱印を奉製いたしました。

四季の風情を愉しみながら、茨城県の誇る伝統の和紙をぜひともご覧ください。頒布予定につきましては公式HP、各種SNSにてお知らせいたします。



写真左 あじさい御朱印(6月1日～) 繊維を葉脈に見立てて紫陽花の葉を和紙で表現

写真右 菊御朱印(10月11日～) 旧暦重陽の節句にあわせて月見と菊酒をモチーフ

「菊花開」

きくのはなひろく

菊は日本人にとって特になじみの深い草花といえますが、その原産地は中国で紀元前二百年ごろ『禮記』に文献上初めて現れました。その頃は薬用(頭痛・めまい等)として使われていたようです。日本には中国で鑑賞用に改良された菊が奈良〜平安時代にもたらされて貴族たちが鑑賞し楽しみました。鎌倉時代、後鳥羽天皇が菊の紋を非常に愛用したことにより、皇室を示す紋章として定着しました。

さて茨城県護國神社の門扉には菊の紋章が裝飾されておりますが、参拝者の方よりなぜ護國神社に菊の御紋があるのですかと質問を受けることがあります。

明治時代、菊の御紋の乱用を避けるため、「官幣社(國幣社) 社殿ノ裝飾及社頭ノ幕提燈ニ限リ菊御紋ヲ用イルヲ許ス」という「太政官達」によって、菊の御紋の使用が整備されました。「太政官達」より以前から菊の御紋を使用していた社寺についてはそのまま使用を許可することとなりました。

護國神社においては靖国神社の前身である東京招魂社が明治天皇の勅許を受けて創建された神社であること、そして内務省指定護國神社として官幣社・國幣社に準ずることから、慣例的に菊花紋が使用されるようになったようです。

また明治二十二年長崎県より「官祭招魂社菊花紋使用伺い」が官庁にあげられ、その使用を許可された例があり、護國神社での菊花紋使用の根拠となつたと拝察いたします。

茨城県護國神社に御来社の際には社殿の門扉にぜひ御注目ください。

※門扉の菊花紋は御遺族 鈴木明氏の奉納



招魂社探訪

第2回

この度の招魂社探訪では常陸太田市高柿町の富士山と呼ばれる山の中腹に鎮座する金砂郷護國神社を御紹介いたします。



金砂郷護國神社の鎮座する富士山は眺望良く晴れた日には筑波山、日光連山を望めます。また山頂から山麓にかけて八重桜二百本が植えられて、花見の名所となっております。

ぜひともトレッキングをしながら、金砂郷護國神社をお参りされてはいかがでしょうか。

金砂郷護國神社宮司 多賀谷謙豊様、多賀谷豊臣様のご協力を頂きました。誠に有難うございます。



金砂郷護國神社全景

金砂郷護國神社

■鎮座地

〒313-0113 常陸太田市高柿町二五七-一七

■柱数

五百八柱

■例祭日

三月、九月に慰霊祭を行う

■由緒

昭和十八年、久米村、郡戸村、金郷村及び金砂村の各村に遺族青年会が発足。その有志により各村の旧村役場内に戦没者の御霊を慰めるため忠霊塔が建立される。さらに金郷村においては村内の全八社に及ぶ神社の境内に末社として鎮霊社を建立し、戦没者の御霊の慰霊が行われた。

昭和二十五年、金郷村においては忠霊塔を「金郷村護國神社」として高柿町の富士山中腹に遷座。

昭和三十年、久米村、郡戸村、金郷村及び金砂村の四カ村は合併し、金砂郷村に改称。それに伴い各村の忠霊塔は金郷村護國神社に合祀され、昭和三十三年「金砂郷護國神社」に改称された。

昭和四十六年、氏子の寄付等により瓦葺拝殿竣工。

平成二十九年、東日本大震災により屋根瓦が大きく損壊したため、旧金砂郷村氏子の寄付を受け、ガルバニウム銅板に履き替えて現在に至る。

中秋の名月と菊まつり

九月十日中秋の名月にあわせてお月見をいたしました。境内に自生するすすきを飾り月見団子をお供えしました。



十月二十三日には菊まつりを開催いたしました。県内各地の菊愛好家の方より多数の奉納がありました。

また神職がスプレー菊を苗から育てて奉製した菊守を頒布いたしました。

◆ 菊花奉納者芳名 ◆

○水戸市

水戸市菊花愛好会連合会

安蔵敏雄 勝村敏勝 桑名菊枝

郡司博 須能一男 山田昌巳

吉田潤一

○小美玉市

鏑谷正勝

○稲敷市

秋本正 関川稔夫 野口茂雄

○ひたちなか市

丹治清美

○茨城町

小川明

本年も一年間丹精込めて作られた盆養・福助・達磨・懸崖・特作等の菊花が奉納され境内を彩りました。

御遷座八十年記念特集

茨城県護國神社 桜山御遷座

茨城県護國神社

明治十一年現在の水戸市常磐神社の境内地に嘉永六年以後明治維新に至るまでの国事に斃れた千八百三十柱の英霊を御祭神に「鎮靈社」として創祀されたことによりはじまります。その後、日清日露、満州事変、支那事変の英霊の合祀が行われましたが、創建当時の御社殿では狭隘となっております。

昭和十四年 桜山遷座計画発議

内務省が「招魂社ヲ護國神社ト改称スルノ件」という法令を発して、全国各県に一社または二社の護國神社の奉斎が決定したことにより、同年三月茨城県護國神社御造営奉賛会が立ち上がりました。天下の景勝と名高い「偕楽園」の付属地であり、十分な広さの敷地が確保できることから、新社殿は桜山に御造営することとなり昭和十四年十二月十八日神社建設予定地において地鎮祭が斎行されました。

竣功まで二年の歳月を要し、その間水戸市、東茨城郡、那賀郡の各町村の青年団によって、桜、松など樹木の移植、地ならしが行われています。また県下の男子中等学校生徒、青年学校生徒、青年団、軍人、各種女子生徒、児童その他

による勤勞奉仕が行われています。

「いはらき新聞社」では一口一銭の大鳥居奉獻運動を起して、全県民参加を目標に寄付を募っております。

昭和十六年十一月一日 新殿祭

遂に新殿が竣工し、新殿祭が斎行されました。社殿は檜皮葺、台湾檜を使用して建立され、二対の鳥居は県民の募金によって建立されたものとなります。

昭和十六年十一月六日

遷座祭並びに遷座奉祝祭、合祀祭

嘉永六年より明治維新に至る英霊千八百三十柱と日清日露、満州事変、支那事変によって英霊となられた四千二百六柱の英霊を旧社殿鎮靈社から新社殿へ御遷座いただく遷座祭が斎行されました。

翌七日には遷座奉祝祭、新たに合祀される六百八十九柱の英霊の合祀祭が斎行されました。

遷座祭

六日午後七時より斎行され、午後七時半、御神霊の奉安された御羽車が大鳥居より六十余

段の石段を上がる時、神職の打ち鳴らす笏拍子の合図で全県下の電灯がすべて消灯され、全県民が遙拝致しました。雅楽の音と神職の警蹕（警蹕がお出ましになると、声をかけ）のなか、御羽車は鎮靈社から三千人余りの遺族、参列者がお迎えする新殿に進み、御神霊はお鎮まりになりました。合祀祭は午後七時より斎行され、新たな六百八十九柱の英霊が浄間のなかお鎮まりになられています。遷座祭を奉祝し、奉納体育大会が開催されています。

御遺族の鈴木明氏

氏は、当時十二歳で遷座祭に参列されており、「鎮靈社から茨城県護國神社までの道のりに真白な砂利を青年団が均して引いていたこと」、「暗闇の中篝火を道しるべに大きなお神輿が進んでいったこと」をよく記憶されておりました。茨城県護國神社社殿門扉の菊花紋を奉納されたのはこの鈴木明氏です。

当時の「いはらき新聞」にはこの二日間て神職奉仕者合わせて三百人、三千人もの参拝者が集まったと報じています。官民一体となつて多くの県民が茨城県護國神社の創建を待ち望んでいたことが窺い知れます。

秋酣なり 櫻山の神域に

護國の神を御遷座

けふ厳かに執行さる



新神遷座の儀は、けふ午後五時、櫻山(水戸市平須町)の神域に於て厳かに執行せらる。護國の神は、戦時中、護國神社に御遷座され、戦後、護國神社が廃止されたことにより、櫻山の神域に御遷座された。この御遷座の儀は、厳かに執行され、けふ午後五時に厳かに執行せらる。護國の神は、戦時中、護國神社に御遷座され、戦後、護國神社が廃止されたことにより、櫻山の神域に御遷座された。この御遷座の儀は、厳かに執行され、けふ午後五時に厳かに執行せらる。

全縣下を淨間に 午後八時

縣民過拜の時間十秒間停電

けふの朝、水戸市第六十五丁に於て、護國神社の神域に於て、護國の神を御遷座するに當り、全縣下を淨間にし、午後八時に於て、縣民過拜の時間十秒間停電せらる。この御遷座の儀は、厳かに執行され、けふ午後五時に厳かに執行せらる。護國の神は、戦時中、護國神社に御遷座され、戦後、護國神社が廃止されたことにより、櫻山の神域に御遷座された。この御遷座の儀は、厳かに執行され、けふ午後五時に厳かに執行せらる。

出典: 1941年11月6日付茨城新聞

〒三〇〇八五三 水戸市平須町二二六四

株式会社 **ライディングクラブウイंडズ**

笹沼 恭一
☎〇二九(二四四)六六〇〇

〒三〇〇四一 水戸市上水戸一四二二

医療法人石渡会 **石渡産婦人科病院**

理事長 石渡 勇
☎〇二九(二二二)二五五三

〒三〇〇四五 水戸市新原一丁目三三三七

野村花火工業株式会社

代表取締役 野村 陽一
☎〇二九(二五四)三三七〇

〒三〇一〇五 那珂市菅谷六〇五二二

株式会社 **千本杉**

代表取締役 中村 澄夫
☎〇二九(二九八)〇五七五

〒三〇〇四六 水戸市曙町一〇一八

お菓子処 **ひろせ**

代表 廣瀬 雅典
☎〇二九(三五三)六八三六

〒三一四一五 水戸市木葉下町富士山二九二二二

茨城倉庫株式会社

☎〇二九(二五一)二二二一